

情報科学研究科【学位授与の方針】

情報科学研究科は、定められた課程を修め、以下の要件を満たした者に対して学位を授与する。

<教育研究上の目的(理念・目的)>

〔博士前期課程(修士課程)〕

1. 情報科学専攻博士前期課程は、重要な社会インフラである情報技術の研究開発と応用に関して、高度な専門能力を発揮できる人材の養成を目的としており、特にネットワークを含めた情報システムや情報処理などの高度情報技術の専門家の養成を目的とする。人間の知的活動を支援するコンピュータとネットワーク環境についての基礎教育を重視し、修得すべき知識・技術の教育を行うと同時に専門能力を高めるために最先端の知識・技術の修得が重要であり、自ら進んで調査・研究することを教育目標とする。
2. メディア科学専攻博士前期課程は、コンピュータを活用した高度なメディア処理、表現技術の専門家の養成を目的としており、特にコンピュータと人間との関わりの中で、デジタルコンテンツや仮想化技術など、情報の表現を扱うことができる高度専門技術者の養成を目的とする。人間の知的活動を支援するメディア技術についての基礎教育を重視し、修得すべき知識・技術の教育を行うと同時に専門能力を高めるために最先端の知識・技術の修得と、自ら進んで調査・研究することを教育目標とする。

〔博士後期課程〕

1. 情報認知科学専攻博士後期課程は、情報科学技術、認知科学およびその応用分野で研究者として独り立ちできる研究専門家および高度専門技術者の養成を目的とする。ネットワークを含む情報システムや知的情報処理に関する研究専門家および高度専門技術者、学習支援やヒューマンインタフェースに関する研究専門家および高度専門技術者を養成するために研究者として備えるべき知識・技術の教育を行い、自立した研究者となるために自ら主体的に調査・研究する能力を身に付けることを教育目標とする。
2. メディア科学専攻博士後期課程は、メディアを含む情報科学技術、認知科学およびその応用分野で研究者として独り立ちできる研究専門家および専門技術者の養成を目的とする。コンピュータを活用した創造的な表現が行なえる高度なメディア研究専門家および高度専門技術者を養成するために研究者として備えるべき知識・技術の教育を行い、自立した研究者となるために自ら主体的に調査・研究する能力を身に付けることを教育目標とする。

＜学習成果(教育目標)＞

〔博士前期課程(修士課程)〕

情報科学研究科博士前期課程は、上記の目的を目指して、定められた課程を修め、研究指導を受けた上で修士論文（※）を作成提出し、その審査および最終試験に合格した者に対して修士（情報理工学）または（メディア科学）を授与する。

1. 情報科学全般にわたる広く深い学識を有し、現代の社会と産業社会が直面する情報科学上の諸問題に学術的側面から多面的に取り組み、社会的および産業社会的な要請に応えるために自ら考え、方策を講じてそれらを打開する力があること。
2. 情報科学を専門とする自立した研究者としての学識を有し、博士後期課程に進学できる能力を身につけていること。
3. 修得した知識と技能を用いて、社会、特に産業社会に貢献できる専門的実務者としての能力を身につけていること。
4. 研究者または職業人としての自覚を持ち、高い倫理観を身につけていること。

※以下の審査項目について、主査1名、副査2名以上による評価、並びに複数の教員による審査会を行い、可否を判定する。

1. 研究成果の妥当性

研究成果は、新規性、有用性、信頼性のいずれにも優れているか。

2. 情報収集能力

十分な文献や研究動向の調査を行い、先行研究に対する自分の研究の位置づけと意義を明確にできているか。

3. 研究遂行能力

理論の構築、実験・シミュレーションによる実証・評価、システムの実現と評価、作品の制作などが十分にできているか。

4. 情報発信能力

研究内容をわかりやすくプレゼンテーションでき、質問に的確に答えられたか。

5. 論文作成能力

論文としての体裁（表紙、要旨、目次、章立て、本文、結論、参考文献など）を満たしているか。

〔博士後期課程〕

情報科学研究科博士後期課程は、上記の目的に基づき、定められた課程を修め、研究指導を受けた上で博士論文（※）を作成提出し、その審査および最終試験に合格した者に対して博士（情報科学または認知科学）または（メディア科学）を授与する。

1. 情報科学全般にわたる広く深い学識を有し、現代の社会と産業社会が直面する情報科学上の諸問題に学術的側面から多面的かつ絞った課題については特に深く取り組み、

社会的および産業社会的な要請に応えるために自ら考え、方策を講じてそれらを打開する力があること。

2. 情報科学を専門とする自立した研究者としての学識を有し、新たな課題を発見し、修士課程の研究を牽引していく能力を身につけていること。
3. 身につけた知識と技能を発展的に用いて、社会、特に産業社会に先頭に立って貢献できる専門的実務者としての能力を身につけていること。
4. 研究者または職業人としての強い自覚を持ち、高い倫理観を身につけていること。

博士論文は新規性、有用性、信頼性に優れ、学術的、社会的に貢献することができる水準のものであること。